

リーディングDXスクール事業【実践事例】

広島市立牛田中学校（広島県）

【取組内容①】 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

1. 中学校区の計画
中学校区全体で「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて取組む
2. 計画のポイント
 - ① 児童生徒「一人一人が問題解決する授業づくり」のため自らの授業を振り返る
 - ② 学習場面に応じた学びを一体的に充実 ③ 目指す授業（クラウド型の学び）
3. 牛田中学校区DX計画（USHITA-DX-PLAN）試案

牛田中学校区DX計画（USHITA-DX-PLAN）試案

1. 計画の目的

GIGAスクールにおける学びを充実させ、児童生徒の情報活用能力の育成を図り、児童生徒一人一人が問題解決をする授業づくりのため、1人1台端末とクラウド環境を活用した教育実践を創出・モデル化する。

2. 指定校（3校）

牛田新町小学校	牛田小学校	牛田中学校
豊かな夢や志をもち 共にたくましく生きる学校	心ときめく学校	夢・希望・可能性が 大切にされる学校
<ul style="list-style-type: none"> ●児童数 448名 ●教職員 60名 ●18学級 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童数 1,237名 ●教職員 107名 ●45学級 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒数 885名 ●教職員 70名 ●21学級

3. 計画のポイント

① 課題への対応 ② 実現する学び ③ 目指す授業（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ→説明・発表 ※随時振り返り）

① 児童生徒「一人一人が問題解決する授業づくり」のため自らの授業を振り返る（プロットして個人や教科等の傾向を整理・分析）

② 学習場面に応じた学びを一体的に充実

③ 目指す授業（クラウド型の学び）

USHITA学びのヒートマップ

比治山大学 鹿江宏明教授との共同研究

【個別最適な学び】

- 指導・評価の個別化
一人一人に合った教材・学習時間・方法・評価
- 学習の個性化
自分の最適な学びを自力で計画・実行できる

【協働的な学び】

一人一人の良さや可能性を基に多様な他者と協働し、異なる考えが組み合わせることで生み出すよりよい学び

4. 基盤的環境

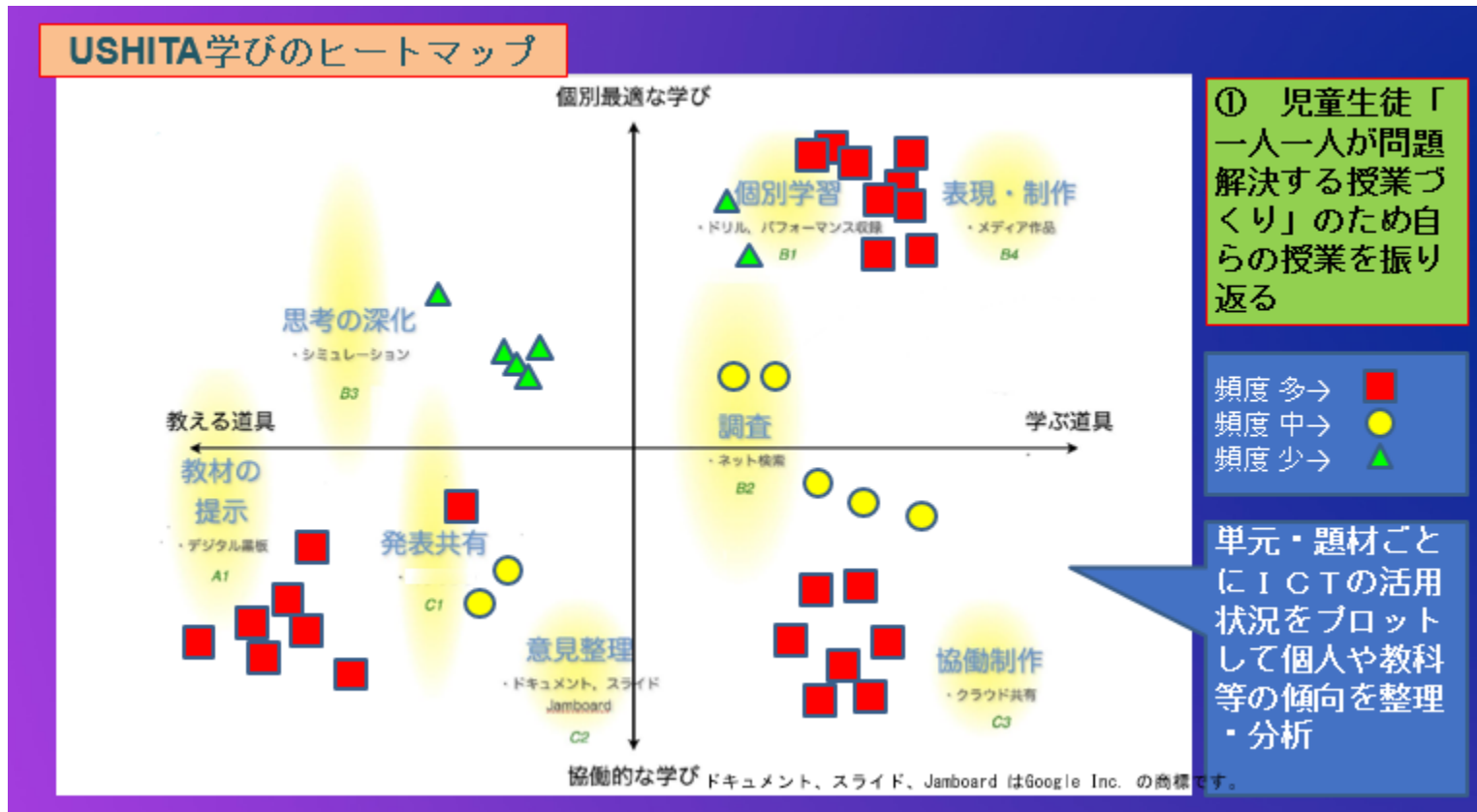
① 情報モラル教材「事例で学ぶNetモラル」導入 ② 情報担当者配置（中学校） ③ 教育支援システム導入（広島市）

参照:クラウド活用授業 (2022年 東京学芸大学 高橋純教授)

【取組内容①】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

4. ヒートマップの使い方

単元・題材ごとにICTの活用状況をプロットして個人や教科等の傾向を整理・分析



【取組内容①】 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

1. 実践事例「数学」

クラウドを利用した他者参照できる授業を数学全体で取り組んでいる。一斉授業のみでは理解度の点から学びから離れていく子どもたちがほぼゼロになっている。

2. 授業

クラスルームを用いて生徒へ課題提示。

3. 生徒の様子

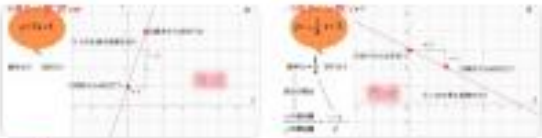
授業はクラウドによる他者参照、自由に直接聞きに行けるスタイル。

1次関数③グラフのかき方

グラフ作成サイト (Geogebra) =><https://www.geogebra.org/calculator>

添付写真は、左が傾きが整数、右が傾きが分数のものをまとめています。

添付ファイル



2023年9月13日 (9:2...

2023年9月13日 (9:2...



【取組内容①】 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

1. 実践事例「理科」

中学3年になると、子どもたち自身で行動を適切に制御できるまで成長しているため、生徒が自主的に課題に取り組めるスタイルを選択。ICT（生成AIを含む）の利点を活かした効率的な授業運営と生徒の学びをより深める取り組みに挑戦した。

2. 授業

クラスルーム内に理科サイトを作成し、課題や、実験計画などを提示。常時参照することを可能とした。



3. 生徒の様子

生徒全員が実験ショート動画を制作することによって知識を活用し、理解度を高める。



【取組内容①】 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

1. 実践事例「YouTuberになろう」（総合的な学習の時間）

情報ネットワークの急速な発展に伴い、メディアの発する情報を一方的に受信するだけでなく、自ら情報を発信する能力が求められている。表現することとおして情報活用力の向上を図るため、「YouTuberになろう」と題し、動画を制作し、適切な情報の発信する取り組みに学年全体で挑戦した。

2. 単元の評価基準

指導計画44時間

①知識・技能

動画の企画制作活動において、目的や対象に応じて適切に実施することができる。

②思考・判断・表現

身近な事象の中から課題を見つけ、その解決に向けて見通しを持って計画を立案し、進めていくことができる。

③主体的に学習に取り組む態度

意欲的に取り組み、活動を通して協働的により良いものを目指そうとしている。

3. 制作動画の視聴

生徒全員が動画を視聴し、意見交換などの活動を通して、他者の作品を適正に分析する態度を養った。



【取組内容②】 インターネット上の動画教材の活用、外部専門家によるオンライン授業の実施

1. 「情報モラル啓発アニメ動画」を用いた計画的な学習

全学年で年間計画に基づいてネット上の動画教材を計画的に視聴し、個人情報、著作権、プライバシー尊重などICTを活用する上で必要なモラルの向上を図っている。

2. 効果

- ①各学年20回、3年間で60回動画を視聴する。
重要な動画は複数年にかけて繰り返し視聴し、定着をはかる。
- ②情報モラルの範囲は多岐にわたるので教師の負担が大きかったが、専門の動画を活用することで高頻度で負担なく繰り返し学習できる環境が整った。
- ③動画は5分前後のアニメなので子どもたちも視聴しやすい内容となっている。

No	動画番号	動画名	視聴学年			視聴月	再生時間 分:秒
			1年	2年	3年		
1	A-28	SNSでのやりすぎ	○	○		5月	6:01
2	A-27	アクセス許可	○			11月	5:23
3	A-26	偽サイト		○		1月	5:29
4	A-25	違法メール	○	○	○	10月	5:29
5	A-24	ゲームサイト	○	○	○	7月	5:14
6	A-21	パスワード	○			2月	3:46
7	A-20	詐欺アプリのダウンロード		○	○	11月	4:43
8	A-29	写真のハッシュタグ	○	○		7月	7:01
9	A-28	フィッシング詐欺	○	○	○	1月	5:09
10	A-25	セキュリティソフト	○		○	11月	5:22
11	A-23	トークアプリ依存	○	○		5月	6:55
12	A-22	スマホで課金	○	○	○	12月	6:39
13	A-18	個人情報の管理	○	○	○	2月	9:20
14	B-24	ネットでの誹謗中傷	○	○	○	6月	4:51
15	B-23	安易な投稿で向上	○	○		10月	6:15
16	B-22	ネットでの正義感		○		9月	6:48
17	B-27	アプリアプリ			○	6月	4:52
18	B-25	SNS	○	○	○	5月	6:27
19	B-24	写真の投稿	○	○		10月	5:55
20	B-23	不適切な書き込み	○	○	○	9月	7:20
21	B-22	グループトークでいじめ	○	○	○	4月	8:04
22	B-21	行き違い	○	○	○	9月	4:32
23	B-20	ネット選挙			○	2月	5:17
24	B-19	ネットショッピング			○	7月	5:46
25	B-18	情報を発信する責任と影響		○	○	9月	5:55
26	C-31	協働学習	○	○	○	4月	5:35
27	C-25	フィッシング詐欺		○		12月	5:51
28	C-22	ワンクリック詐欺			○	1月	3:44
29	C-21	架空請求や不当請求			○	2月	5:44
30	C-19	スマホ・ゲーム依存	○	○	○	6月	7:09
			20	20	20		

年間視聴計画表

【取組内容④】 校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修

1. 先進校の実例から学ぶ研修

校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修の実現に向け、牛田中学校区の小学校2校と合同で講師を招聘し研修を実施した。校務でのICTの活用を日常的に使っていく取組みについて研修を受けた。

2. 研修内容

日時：令和5年7月21日（金）

講師：筑波大学 教育学部 教授

（元つくば市立みどりの学園義務教育学校・校長）毛利 靖 先生

参加者：広島市立牛田小学校・牛田新町小学校・牛田中学校 約200名



筑波大学 毛利 靖 先生